

産業廃棄物処理計画書

2020 年 6 月 13 日

宮崎県知事

殿



提出者

住所 青森県上北郡横浜町字林尻102-100

氏名 日本柯イトファーム株式会社
代表取締役 吉原 洋明

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0175-78-3934

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	日本柯イトファーム株式会社 宮崎食品工場
事業場の所在地	宮崎県日向市美々津町2277番地
計画期間	2020年4月1日～2021年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	食料品製造業 (09)
②事業の規模	資本金 15.6億 年商136.5億
③従業員数	550人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙①のとおり

ノ-1V

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙②のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度 (2019 年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙③のとおり	
	排出量	31,542 t	t
	(これまでに実施した取組) 工場内で発生する有機性残渣を回収し排水処理の負荷を軽減させる		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙④のとおり	
	排出量	31,347 t	t
	(今後実施する予定の取組) 工場内で発生する有機性残渣を回収し排水処理の負荷を軽減させることを継続して行う。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄物置場の整理整頓、分別確認。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 分別を徹底させ減量化をめざす

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 2019 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 2019 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	26,199 t	t
	(これまでに実施した取組)		
30年度は100%肥料化している 今後も100%再生利用を図る			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	26,100 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
工場使用水の減量を図り有機性汚泥の低減化を目指す			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 2019 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（ 2019 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙③のとおり	
	全処理委託量	5,343.1 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	5,343.1 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
①脱水効率の向上化 (脱水機増設H24年3月) ②節水対策 (H27年) ③膜処理設置 (H29年)			

		【目標】		
		産業廃棄物の種類	別紙④のとおり	その他
②計画	全処理委託量	5,151	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量		t	t
	再生利用業者への 処理委託量	5,151	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量		t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		t	t
	(今後実施する予定の取組)			
①工程内リサイクルの取組 ②発生抑制考慮した製造方法の検討				
※事務処理欄				

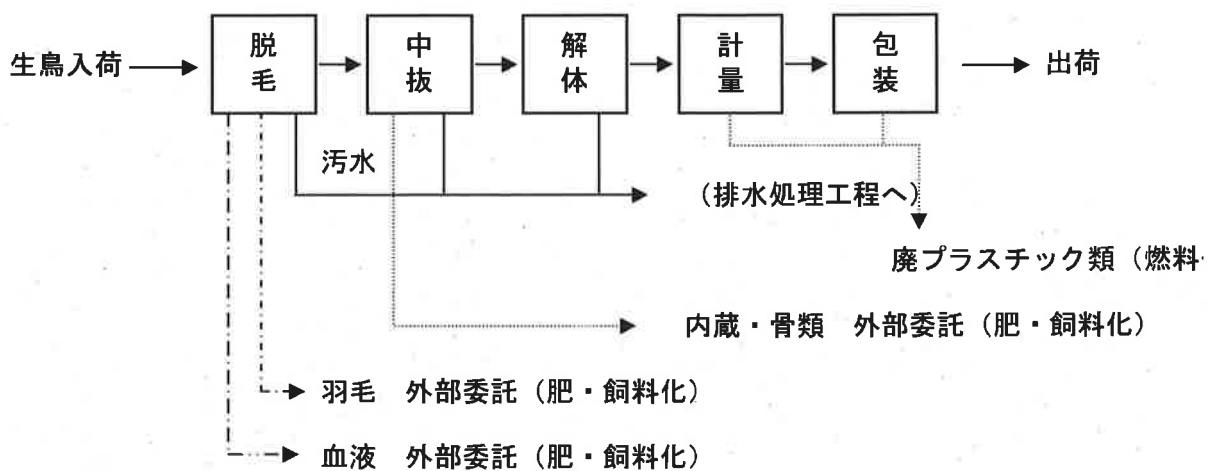


図1 ブロイラー処理フローシート

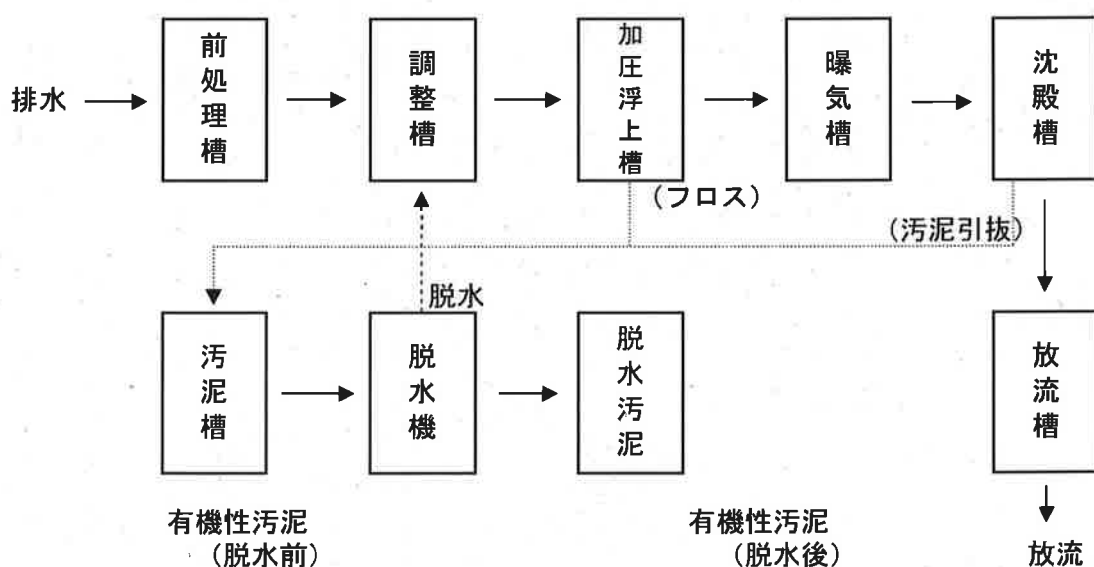


図2 排水処理フローシート

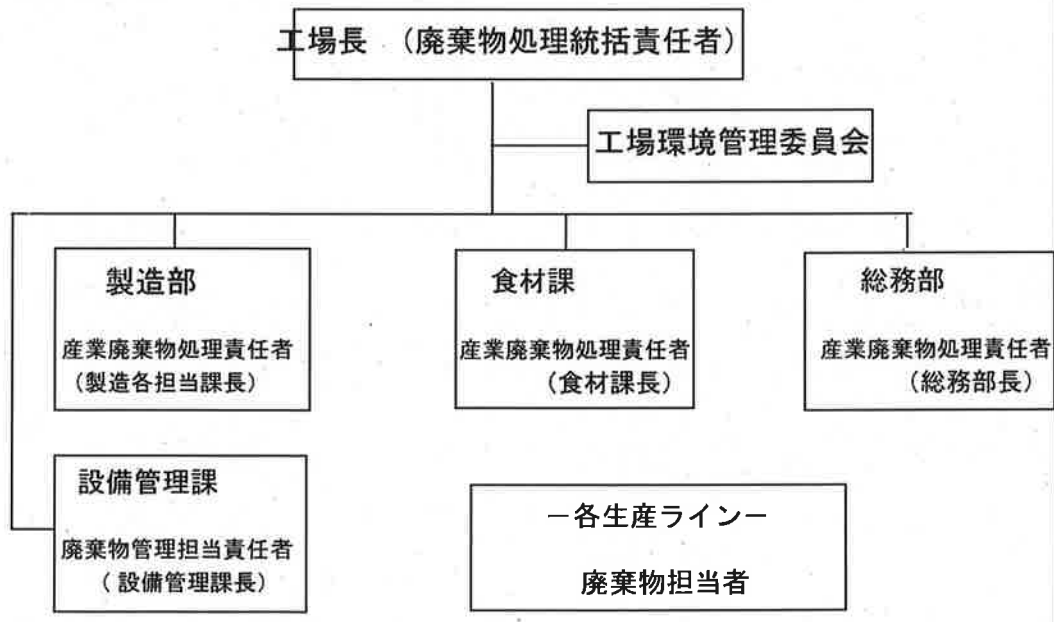
産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(1) 責任者及び管理組織図

統括責任者		所 属 : 宮崎食品工場	工場長職・氏名 : 小西 昌夫
廃棄物担当		組織名 : 設備管理課	課長職・氏名 : 平山 明 組織人数 : 8人
役 割	工場環境管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 廃棄物処理に関する検討 ○ 廃棄物の発生抑制、再生利用、中間処理、適正処理の推進、計画的な廃棄物の管理運営を行う上で必要な事項を検討する。 ・ 委員長—工場長 ・ 委員—関連部署部課長 ・ 事務局—設備管理課 	
	廃棄物処理統括責任者	<ul style="list-style-type: none"> ○ 廃棄物処理方針の策定 ○ 工場の廃棄物管理規程の策定・改廃 ○ 廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認 	
	廃棄物管理担当課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 廃棄物処理計画の作成 ○ 廃棄物管理状況の把握と改善策の検討 ○ 産業廃棄物処理施設の運転・維持管理状況の把握 ○ 処理業者、再生利用業者の調査、選定及び管理 ○ 委託契約の締結 ○ 産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物管理表の交付・管理 ○ 監督官庁への各種報告 ○ 社員、関連会社に対する教育・啓発 ○ その他関係する事項 	

廃棄物管理組織

日本ホワイトファーム（株）
宮崎食品工場



産業廃棄物の種類別発生・処理状況（2019年度実績）

別紙①欄

廃棄物の種類	発生源 【フローシート 【№】	性状	発生量 （基準量） t/年 【構成比】	処理方法（現状の工程） 一凡例一 （中）：中間処理（最）：最終処分 ○：自己処理 ●：委託処理
①汚泥 有機性汚泥	排水処理工程	泥状	29,110 92.289%	有機性汚泥を脱水（中）○ 脱水汚泥を肥料化（最）● (2,911t/年) ※2
②廃プラ類 (ポリエチレン・紙類)	製造工程 【№1】	固形状 (袋) 固形状 (シート)	149.1 0.47%	ポリ袋等を燃料化（中）● 149.1t/年
③ガラス陶磁器 くず「水銀使用製 品産業廃棄物」	製造工程 【№1～№2】	固形状	0.09 0.0028%	再生（0.09t）（中間）●
④動物性廃油、 LIP洗浄剤	製造工程 【№1】	液状	0.9 0.003%	廃油を再生（0.9）（中）●
⑤ガラス コンクリート 陶磁器くず・木く ず	製造工程 【№1】	固形状	1.07 0.001%	混合廃棄物（中）● (1.07t)
⑥（廃アルカリ） （血液）	製造工程 【№1】	液状	2,280.3 7.229%	血液を飼料（中）● (2,280.3t)
⑦（廃アルカ リ） （ブライン）	製造工程 【№1】	液状	0.6 0.002%	廃油を中和 (0.6t)
合計			31,542.1 100.0%	

(注) ※1 脱水前の量を示す
(注) ※2 脱水後の量を示す

報告廃棄

自動入力	発生量
① 汚泥（電子マネーフエースト+マネーフエースト）	2,911
② 廃プラ類（電子マネーフエースト）	149.1
③ ガラス陶磁器くず「水銀使用製品産業廃棄物」	0.09
④ 廃アルカリ（血液）	2,280.3
⑤ 動物性廃油	0.9
⑥ 木くず	0.79
⑦ 金属くず	0.00
⑧ 混合廃棄物（金属くず、ガラス、コンクリート、陶磁器くず）	0.28
⑨ 混合廃棄物（廃プラ類、木くず、ガラスコンクリート、陶磁器くず）	0
⑩ 混合廃棄物（廃プラ類、金属くず）	0
⑪ 廃アルカリ（ブライン）	0.6
⑫ 廃油（洗浄剤）	0.6
合計	5,343.1

1.16

係数13,5429

	発生量	100,000%	%
①	29,110.00	31,542.1	92.289%
②	149.10	31,542.1	0.473%
③	0.09	31,542.1	0.0003%
④	2,280.30	31,542.1	7.229%
⑤	0.30	31,542.1	0.001%
⑥	0.79	31,542.1	0.003%
⑦	0.00	31,542.1	0.000%
⑧	0.28	31,542.1	0.001%
⑨	0.00	31,542.1	0.000%
⑩	0.00	31,542.1	0.000%
⑪	0.60	31,542.1	0.002%
⑫	0.60	31,542.1	0.002%
合計	31,542.1		100%

(実施状況報告)

産業廃棄物発生量の目標

別添－ 1

	脱水汚泥(t)	(ガラス陶磁器くず・木くず・金属くず) (t)	廃プラ (t)	廃アルカリ (t) (血液)	その他 (t)
① 産業廃棄物発生量	29,000	1.0	145	2,200	1.2
② 自己直接再生利用量	0	0	0	0	0
③ 自己直接埋立処分 又は海洋投入量	0	0	0	0	0
④ 自己中間処理量	2,900	0	0	0	0
⑤ 自己中間処理残さ量	2,900	0	0	0	0
⑥ 自己中間処理後再生利用量	0	0	0	0	0
⑦ 自己中間処理後自己埋立処分又は海洋投入量	0	0	0	0	0
⑧ 直接委託及び自己処理後委託処分量	2,900	1.0	145.0	2,200	1.2

(実施状況報告)

産業廃棄物発生量

別添-2

	水汚泥 (t)	(ガラス陶磁器くず・木くず・金属くず)	廃油 (t)	廃プラ (t)	廃7カカリ (t)	その他 (t)
① 産業廃棄物発生量	29,110	1.2	0.9	149.1	2,280.3	0.60
② 自己直接再生利用量	0	0	0	0	0	0
③ 自己直接埋立処分又は海洋投入量	0	0	0	0	0	0
④ 自己中間処理量	29,110	0	0	0	0	0
⑤ 自己中間処理残さ量	2,911	0	0	0	0	0
⑥ 自己中間処理後再生利用量	0	0	0	0	0	0
⑦ 自己中間処理後自己埋立処分又は海洋投入量	0	0	0	0	0	0
⑧ 直接委託及び自己処理後委託処分量	2,911	1.2	0.9	149.1	2,280.3	0.6
合計						
						5,343.060

係数13.5429

発生量	100.000%	%
29,110	34,331.352	84.791%
149.1	34,331.352	0.434%
0.09	34,331.352	0.000%
2,280.3	34,331.352	6.642%
0.3	34,331.352	0.001%
0.79	34,331.352	0.002%
0.00	34,331.352	0.000%
0.28	34,331.352	0.001%
0.00	34,331.352	0.000%
0.00	34,331.352	0.000%
0.6	34,331.352	0.002%
0.6	34,331.352	0.002%
31,542.060		92

	発生量
電子マネー・電子マネー・電子マネー	2,911
ガラス陶磁器くず「水銀使用製品産業廃棄物」	0.09
動物性廃油	0.3
木くず	0.79
金属くず	0.00
混合廃棄物 (金属くず、ガラス、コンクリート、)	0.28
混合廃棄物 (廃プラ類、木くず、ガラスコンクリ)	0
混合廃棄物 (廃プラ類、金属くず)	0
廃油 (洗浄剤)	0.6
合計	5,343.060

(処理計画書)

前年度の産業廃棄物発生量 (実績)

別紙-③

	水汚泥 (t)	(ガラス陶磁器くず・木くず・金属くず) (t)	廃油 (t)	廃プラ (t)	アルカリ (t)	その他 (t)
① 産業廃棄物発生量	29,110	1.16	0.9	149.1	2,280.3	0.6
② 自己直接再生利用量	0	0	0	0	0	0
③ 自己直接埋立処分 又は海洋投入量	0	0	0	0	0	0
④ 自己中間処理量	2,911	0	0	0	0	0
⑤ 自己中間処理残さ量	2,911	0	0	0	0	0
⑥ 自己中間処理後再 生利用量	0	0	0	0	0	0
⑦ 自己中間処理後自 己埋立処分又は海 洋投入量	0	0	0	0	0	0
⑧ 直接委託及び自己 処理後委託処分量	2,911	1.16	0.9	149.1	2,280.3	0.6

(処理計画書)

産業廃棄物発生量 (目標)

別紙-④

	水汚泥 (t)	(ガラス陶磁器くず・木くず・金属くず) (t)	物性廃油 (t)	廃プラ (t)	廃アルカリ (t) (血液)	その他 (t) (ブライン、洗浄液)
① 産業廃棄物発生量	29,000	1.0	0.2	145	2,200	1.0
② 自己直接再生利用量	0	0	0	0	0	0
③ 自己直接埋立処分 又は海洋投入量	0	0	0	0	0	0
④ 自己中間処理量	29,000	0	0	0	0	0
⑤ 自己中間処理残さ量	2,900	0	0	0	0	0
⑥ 自己中間処理後再生利用量	0	0	0	0	0	0
⑦ 自己中間処理後自己埋立処分又は海洋投入量	0	0	0	0	0	0
⑧ 直接委託及び自己処理後委託処分量	2,900	2	1.8	145	2,100	2.7